奉天省西安縣城內滿人兒童ノ耳鼻咽喉科疾患 調 査 成 績 ニ 就 テ

Dr. Tsuyoshi Morita: Oto-rhino- laryngologische Untersuchung
der Mandschurien Kinder in Seian (Hoten Sho-).

滿洲醫科大學耳鼻咽喉科學教室 (主任 松井太郎教授)

西安炭礦病院耳鼻咽喉科 (院長 高野博士)

醫學士 森
モリ

田
タ

丁
ツヨシ

目 次

第一章 緒 言	第四項 慢性鼻炎
第二章 検査材料並ニ検査方法	第五項 肥厚性鼻炎
第三章 検査成績並ニ考案	第六項 鼻中隔彎曲症
第一節 總括的統計	第七項 慢性副鼻腔炎
第二節 主要疾患別統計	第八項 口蓋扁桃腺肥大症並ニ腺様増殖症
第一項 慢性中耳炎	第九項 其 他
第二項 耳聾栓塞症	第四章 結 論
第三項 慢性中耳加答兒	

第四項 慢性鼻炎
第五項 肥厚性鼻炎
第六項 鼻中隔彎曲症
第七項 慢性副鼻腔炎
第八項 口蓋扁桃腺肥大症並ニ腺様増殖症
第九項 其 他
第四章 結 論

第 一 章 緒 言

近時我が國ニ於テハ學校衛生上重大ナル意義ヲ有スル吾ガ耳鼻咽喉科疾患ニ關スル調査報告相次イデ現ハルニ至リ。之ニ對スル一般世人ノ關心モ著シク向上セルハ喜ブベキ現象ナリ。隣ツテ友邦滿洲國ヲ見ルニ。諸般ノ制度整備シ學制整ヒ普通教育モ漸ク其完成ニ近カラントスレドモ。今尙ホ過度期ヲ脱セズ。從ツテ滿人小學兒童ノ耳鼻咽喉科疾患調査ノ如キハ余ノ涉獵シ得タル處ニ依レバ僅カニ馬、竹澤、中島等ノ

業績ヲ見ルノミナリ。然モ之等ハ孰レモ滿洲國內主要大都市奉天市城內ニ於ケル小學兒童ニ就テ調査サレタルモノナリ。余ハ滿洲國ニ於ケル一田舎町ニシテ。然モ奉天地方ニ較ブレバ地勢遙カニ高ク。氣候一層大陸的ナル當西安縣城內ニ於ケル滿人小學兒童ノ耳鼻咽喉科疾患調査ノ機會ヲ得タレバ。茲ニ其調査成績ヲ述ベ以テ滿人小學兒童ノ耳鼻咽喉科の健康狀態調査ノ一資料タラシメントス。

第 二 章 検査材料並ニ検査方法

検査材料ハ奉天省西安縣城內全滿人小學校即チ北壽、龍山、東吉三小學校ノ全兒童1218名、男兒 783

名、女兒430名ニシテ。之ガ年齡別分布ハ9歳ヨリ18歳迄ナルモ。9歳及ビ16歳以上ハ少ク。主トシテ10

歳ヨリ15歳迄ナリ。(第1表參照)

第1表 年齢別被檢兒童統計

年齢	9	10	11	12	13	14	15	16以上
性別								
男 兒	1	110	134	141	144	130	108	20
女 兒	1	22	63	52	96	90	60	46
計	2	132	197	193	240	220	168	66

第 三 章 検査成績並ニ考案

第一節 總括的統計

被檢兒童總數1218名中(男兒788名、女兒430名)耳鼻咽喉科疾患ニツ或ハ二ツ以上疾病ヲ有スル者ハ1007名、81.8%、男兒664名、84.2%、女兒343名、79.7%ニシテ耳鼻咽喉科的健康兒ハ僅カニ211名、18.2%、男兒124名、15.8%、女兒87名、20.3%ナリ。即チ耳鼻咽喉科的健康兒ハ男兒ヨリ女兒ニ多ク、更ニ之ヲ年齢別ヨリ見レバ耳鼻咽喉科的健康率ハ一般ニ年齢進ムニ從ヒテ増加シ、耳鼻咽喉科疾患ハ低年兒程多キ傾向ヲ有ス。但シ9歳及ビ16歳以上ハ實數少ク考慮外トスル必要アリ。(第2表、第3表參照)

第2表 耳鼻咽喉科疾患罹患率

性		有疾患兒	健康兒	被檢總數
男 兒	實 數	664	124	788
	%	84.2	15.8	
女 兒	實 數	343	87	430
	%	79.7	20.3	
合 計	實 數	1007	211	1218
	%	81.8	18.2	

第3表 年齢別疾患率

年齢	9	10	11	12	13	14	15	16以上
實 數	2	102	173	164	200	180	126	50
%	100.0	85.0	87.9	85.0	83.4	81.9	75.0	75.8

一般ニ小學兒童ニ於テ耳鼻咽喉科疾患ノ多キコトハ定説ニシテ、既往ノ我が國文献ニ依レバ本郷ハ91.1%(男93.0%、女89.1%)、海江田ハ

検査方法トシテ余ハ耳鼻咽喉科疾患ヲ外耳濕疹、耳聾、栓塞症、慢性中耳炎、慢性中耳加答兒、鼻孔濕疹、慢性鼻炎、肥厚性鼻炎、鼻中隔彎曲症、萎縮性鼻炎(眞性臭鼻症ヲ含ム)、慢性副鼻腔炎、口蓋扁桃腺肥大症、腺樣增殖症、其他ニ分類セリ。

86.0%、長尾其他ハ78.8%、高越ハ72.0%、原田ハ54.4%、濱、巽、辻村等ハ72.26%(男75.04%、女69.70%)、吉村、藤田等ハ91.4%、竹澤、中島等ハ60.9%(男62.0%、女59.3%)等ナリ。余ノ統計ハ本郷、海江田、吉村等ノソレヨリハ稍々低キモ他ノ孰レヨリモ高ク、是ニ由ツテ之ヲ觀レバ、西安縣城内滿人兒童ノ耳鼻咽喉科疾患罹患率ハ日本ノソレヨリモ概シテ高ク、更ニ又最近竹澤、中島等ガ奉天城内滿人兒童ニ就テ調査セン統計ヨリ遙カニ高シト云フヲ得ベシ。而シテ兒童ノ耳鼻咽喉科検査ハ從來頻繁ニ施行サレ來タレルモ、其成績ニハ著シキ差異アルヲ常トス。之ハ勿論検査材料ノ相違、檢者ノ主觀、診定基準ノ相違等ニ依ルモノアリト雖モ、又アラユル生活環境ノ相違、住民文化ノ高低等ニ基因スル所尠カラザルコトハ數多先人業績ノ示ストコロニシテ、想像ニ難カラザルトコロナリ。

按ズルニ西安縣城内滿人兒童ノ罹患率高キハ余ノ嚴密ナル検査ニ依ル所アランモ、又當地ガ日本内地、臺灣等トハ著シク氣候風土ヲ異ニシテ惠マレザル氣候的條件下ニアルコト、並ニ住民ノ文化低ク極メテ非衛生的生活状態ニアルコト等ニ基因スル所アルナラン。更ニ又同ジク滿人兒童ニ關スル統計ニアリテモ、滿洲國內主要大都市ニシテ都市衛生施設等モ逐日近代都市化シ

ツ、アル奉天城内ノ、主トシテ中流以上即チ滿人トシテハ比較的良好ナル生活ヲ營メル者ノ子弟ヨリナレル學校ニ就テ調査シタル竹澤、中島等ノ統計ニ比シ、余ノ統計ガ遙カニ高キハ、緒言ニ述ベタル如ク當西安縣城ガ滿洲國ニ於ケル一田舎町ニシテ今尙ホ昔ナガラノ支那町ノ域ヲ脱セズ、都市衛生施設等殆ンド見ルベキモノナク、住民ノ文化低ク、然カモ當地ハ地理的ニハ奉天地方ヨリ遙カニ高ク、爲ニ一層大陸の氣候下ニアリ、要約スレバ當地兒童ガ奉天城内兒童ニ較ベ一層惠マレザル氣候の條件下ニアリ且ツ又一層非衛生的の生活狀態ニアルコトニ基因スル所尠カラザラント思惟スルモノナリ。

第二節 主要疾患別統計

第一項 慢性中耳炎

總數29名、2.3%、其中男兒20名、2.5%、女兒9名、2.0%ニシテ男女略ニ同率ナリ。年齡別ニハ實數少キ故考慮外トセリ。

之ヲ從來ノ文獻ニ徵スルニ、日本ニ於テハ1.7%乃至11.9%ヲ示シ著シク差異アルモ平均3.0%乃至4.0%ニ相當シ、滿人ニ就テハ馬ノ4.0%、竹澤、中島等ハ1.6%ト云ヘリ。余ノ統計ハ竹澤、中島等ト馬トノ中間ニアリ（第4表參照）。

第二項 耳聾陰塞症

總數411名、33.7%、其中男兒291名、36.9%、女兒120名、27.9%ニシテ男兒ハ女兒ニ比シ著シク罹患率高ク、年齡別ニ見レバ低年兒程罹患率高シ（第4表、第5表參照）。

本症ハ小學兒童ニハ最も多キ耳疾ノ一ツト云ハレ、從來日本ニ於テ報告セラレタル本症ノ%ニハ著シキ差異アリ。鵜木ノ八統計ヲ平均セルモノハ26.2%ヲ示スモ、最近ノ報告ヲ見ルニ金野、山根等ノ8.87%、濱、巽、辻村等ノ11.49%、山

崎ノ20.9%、後藤ノ21.4%、吉村、田中、藤田等ノ13.8%等ニシテ概ネ20.0%内外ノ如シ。更

第4表 各疾患男女別統計

疾 病 名	男 實數	男%	女 實數	女%	合計 實數	合計 %
耳 聾	291	36.9	120	27.9	411	33.7
外 耳 濕 疹	2	0.2	2	0.5	4	0.3
慢 中 炎	20	2.5	9	2.0	29	2.3
慢 中 加	13	1.6	10	2.3	23	1.8
慢 鼻 炎	150	19.0	63	12.2	203	16.6
肥 鼻 炎	128	16.2	57	13.2	185	15.1
鼻 中 隔 彎	173	21.9	63	14.6	236	19.3
鼻 孔 濕 疹	2	0.2	1	0.2	3	0.2
慢副鼻腔炎	36	4.5	11	2.5	47	3.8
萎縮性鼻炎	4	0.5	7	1.6	11	0.8
口 扁 肥 大	278	35.5	160	36.5	438	35.9
腺 樣 增 殖	330	41.8	166	38.0	496	40.6
其 他	3	0.3	2	0.5	5	0.4

第5表 耳聾陰塞症統計

年齡	9	10	11	12	13	14	15	16 以上	計
實數	1	45	81	84	82	65	33	20	411
%	50.0	34.0	41.1	43.5	34.1	29.5	19.6	30.3	33.7

ニ又滿人兒童ニ關シテハ馬ノ7.2%、竹澤、中島等ノ19.9%等アリ。余ノ統計ハ33.7%ニシテ最近ニ於ケル日本ノ統計並ニ奉天城内滿人兒童ノソレヨリ遙カニ高率ヲ示セリ。之ハ西安縣城內滿人兒童ガ甚ダ不潔ナル非衛生的の生活環境ニアツテ身體ヲ清潔ニ保ツ觀念ニ乏シキ爲メナランカ。

次ニ本症ガ女兒ヨリ男兒ニ多ク、又低年兒ニ多キコトハ新井、金野、山根等、竹澤、中島等ノ成績ト一致スルコロニシテ、是亦男兒ハ女兒ヨリ、低年兒ハ年長兒ヨリ身體ヲ清潔ニ保ツ觀念ニ乏シキ爲ナラン。

第三項 慢性中耳加答兒

患兒ハ僅カニ23名、1.8%、其中男兒13名、1.6%、女兒10名、2.3%ニシテ男兒ヨリモ女兒ニ罹患率高キ如キモ實數少ク詳ラカナラズ。年齡的關係亦然リ（第4表參照）。

本症ハ日本ニ於テハ久保 1.0%、岸 1.2%、鶴木 15.7%、山崎 14.7%、滿洲ニ於テハ馬 12.0%、竹澤、中島等 0.3% 等ノ報告アリ。余ノ統計ハ鶴木、山崎、馬等ニ較ブレバ著シク低率ナリ。

第四項 慢性鼻炎

總數 202 名、16.5%、其中男兒 150 名、19.0%、女兒 52 名、12.0%ニシテ男兒ハ女兒ヨリ罹患率高ク、年齢別ニハ明ラカニ低年齢程多キコトヲ知レリ（第 4 表、第 6 表参照）。

第 6 表 慢性鼻炎統計

年齢	9	10	11	12	13	14	15	16 以上	計
實數	0	27	42	34	39	35	17	9	203
%	0.0	20.4	21.3	17.6	16.2	15.9	10.1	13.6	16.6

從來報告サレタル本症罹患率ハ頗ル一定ヲ缺ギ、内海 5.38%、高越 11.0%、長尾 18.0%、中村 36.1%、海江田 59.0%、金野、山根等 21.05%、濱、巽、辻村等 10.31%、山崎 31.6%、森本、後藤等 12.8%、竹澤、中島等 15.1%ニシテ、余ノ成績ハ概シテ低率ノ部ニ屬ス。而シテ本症ガ女兒ヨリ男兒ニ多ク、又年齢別ニハ低年齢ニ比較的多キコトハ既往ノ文獻ト同様ナリ。

第五項 肥厚性鼻炎

總數 185 名、15.1%、其中男兒 128 名、16.2%、女兒 57 名、13.2%ニシテ本症モ亦女兒ヨリ男兒ニ多ク、年齢別ニ之ヲ見レバ年齢長ズルニ從ヒテ罹患率増加スル傾向ヲ認メタリ（第 4 表第 7 表参照）。

第 7 表 肥厚性鼻炎統計

年齢	9	10	11	12	13	14	15	16 以上	計
實數	0	13	31	25	40	39	28	9	185
%	0.0	9.8	15.7	12.9	16.6	17.7	16.6	13.6	15.1

從來ノ報告ヲ見ルニ鶴木 8.0%、濱、巽、辻村等 10.2%、（男 14.03%、女 6.65%）、黒田 8%、

金野、山根等 2.4%、竹澤、中島等 6.0%等ニシテ、余ノ統計ハ過去ノ何レヨリモ高率ナリ。尙ホ鶴木、高越等ハ本症ガ男兒ニ比較的多キコトヲ主張セルガ、余ノ統計ニ於テモ亦女兒ヨリ男兒ノ罹患率高キコトヲ認メタリ。年齢ト共ニ罹患率増加スルコトハ既往ノ業績ト一致セリ。

第六項 鼻中隔彎曲症

總數 236 名、19.3%、其中男兒 173 名、21.9%、女兒 63 名、14.6%ニシテ本症ハ各年齢ニヨリ性別罹患率ノ動搖激シキモ、一般ニ年長男兒ハ年長女兒ニ比シ罹患率高シ。年齢別ニ見ルニ年ト共ニ罹患率増加ス（第 4 表、第 8 表参照）。

第 8 表 鼻中隔彎曲症統計

年齢	9	10	11	12	13	14	15	16 以上	計
實數	1	22	31	27	40	45	61	9	236
%	50.0	16.6	15.7	13.9	16.6	20.4	36.3	13.6	19.3

小學兒童ノ本症ハ多カラズ。又日本ニ於ケル統計ニ差アリ、即チ清水ノ 0.8%乃至 1.0%、海江田ノ 8.0%、鶴木ノ 38.1%、濱、巽、辻村等ノ 14.96%、金野、山根等ノ 10.58%等。又満人兒童ニ就テハ竹澤、中島等ハ 0.9%ナリト。余ノ統計ハ竹澤、中島等ノモノヨリ遙カニ高く、濱、巽、辻村等ノ成績ニ最モ近似ス。

次ニ男女別ニ見ルニ、本症ハ歐洲ノ報告ニ依レバ男兒ニ多シトス、（フランケンベルグ、O. Frankengerger 男 15.4%、女 11.2%、ケイフマン、Kafemann 男 14.6%、女 11.6%）、又日本ニ於ケル報告ハ却ツテ女兒ニ多シトス、（清水男 0.8%、女 1.2%、鶴木男 32.9%、女 37.7%）。余ノ統計ハ女兒ヨリ男兒ニ多ク歐洲ノ統計ト同一傾向ヲ示セリ。

本症ノ年齢ノ關係ニ就テハ從來諸説アリ。最初記載センツッケルカンドル氏ハ本症ハ幼年期ニ

ハ比較的少シト。又鶴木ハ輕度ノモノマデ統計シタルニ小學校ニ於テハ幼弱ナルモノニ必ズシモ少カラズト。而シテ高度ノモノハ恐ラク年齢ト共ニ増加スベシト述ベタリ。余ノ統計ニ於テハ年齢ト共ニ増加セリ。即チ鼻中隔彎曲症ハ兒童期ニハ成長ト共ニ増加シ著明トナル。

第七項 慢性副鼻腔炎

患兒總數47名。3.8%。其中男兒36名。4.5%。女兒11名。2.5%ニシテ女兒ヨリ男兒ニ多キモ實數少キ故年齡の關係ハ考慮外トセリ（第4表參照）。

文獻ニ依レバ濱、巽、辻村等ハ2.64%。黒田ハ6.0%。金野、山根等ハ7.5%。竹澤、中島等ハ1.9%ナリト。余ノ統計ハ稍々低率ノ部類ニ屬ス。一般ニ「鼻タレ小僧」ト云ハルハモ統計ハ反ツテ之ヲ裏書セズ。

第八項 口蓋扁桃腺肥大症

並ニ腺樣増殖症

腺樣増殖症患兒總數496名。40.6%。其中男兒330名。41.8%。女兒166名。38.6%ニシテ男兒ニ於テ女兒ヨリ稍々多ク。年齡別ヨリ之ヲ見レバ低年兒程罹患率高シ（第4表並ニ第9表參照）。

第9表 腺樣増殖症統計

年齡	9	10	11	12	13	14	15	16以上	計
實數	1	66	105	97	92	83	42	10	496
%	50.0	58.0	53.3	50.2	38.3	37.7	25.0	15.1	40.6

口蓋扁桃腺肥大症患兒總數438名。35.9%。其中男兒278名。35.2%。女兒160名。36.5%ニシテ女兒ニ於テ男兒ヨリ僅カニ罹患率高ク。年齡別ニハ11歳、12歳ニ於テ罹患兒多ク其前後ニ於テ減少セリ（第4表並ニ第10表參照）。

口蓋扁桃腺肥大症並ニ腺樣増殖症ハ共ニ最も早くヨリ學校衛生上喧傳セラレタル疾患ニシテ。

其調査報告モ枚舉ニ遑アラズ。即チ鶴木ハ我が

第10表 口蓋扁桃腺肥大症統計

年齡	9	10	11	12	13	14	15	16以上	計
實數	2	46	79	79	82	84	48	16	438
%	100.0	36.3	40.1	40.9	34.1	38.1	28.6	24.2	35.9

國ニ於ケル口蓋扁桃腺肥大症ニ關スル主ナル統計12ヲ集メタルニ最高46.1%。最低10.7%。平均24.6%ナリト。其他ノ報告ヲ見ルモ大約20乃至30%ヲ上下ス。滿人兒童ニ關シテハ、馬ハ44%ナリト云ヒ、竹澤、中島等ハ18.8%ナリト云フ。而シテ余ノ統計ハ35.2%ニシテ。一般ニ高率ノ部類ニ屬シ、馬ノソレヨリ低ク、竹澤、中島等ノモノヨリ遙カニ高率ナリ。

又腺樣増殖症ニ就テハ、我が國ニ於テハ久保32.0%。田中32.4%。外山22.69%。高越39.0%。小此木30.0%。鶴木16.0%。石丸30.5%。大澤31.4%。本郷32.3%。長尾7.7%等即チ7.7%乃至39.0%ノ罹患率ヲ示ス。滿人ニ就テハ、馬ハ30.0%。竹澤、中島等ハ4.3%ナリト報ジタルガ、余ノ統計デハ41.8%ニシテ既往ノ孰レヨリモ高シ。斯クノ如ク西安縣城内滿人兒童ニ於テ口蓋扁桃腺肥大症及ビ腺樣増殖症罹患兒多キハ興味アル事實ナリ。

更ニ又從來ノ報告ヲ通覽スルニ、小學兒童ニ於ケル口蓋扁桃腺肥大症ハ男女別ニハ一定ノ關係ヲ示サズ。即チ中井、金野及ビ山根、内海、中山等ノ統計ニテハ女兒ヨリ男兒ニ多ク、清水、竹澤及ビ中島等ノ統計ニテハ女兒ニ多ク。又鶴木、三尾、山口及川本諸氏ノ統計ニテハ男女間ニ差異無キガ如シ。而シテ余ノ統計ニ於テハ男兒ヨリ女兒僅カニ高率ニシテ清水、竹澤及ビ中島等ノモノト同一傾向ヲ示セリ。

又年齡別ニハ學齡兒ニ多キコトハ周知ノコトナ

ルモ、小學校内年齢範圍ニテハ検査者ノ異ナルニ依リテ一定セズ。即チ鶴木ハ年少者ニ多ク11歳以後ハ男女共ニ罹患率ヲ減少セリト。西川、今井等ハ10歳乃至12歳ニ最も多シト。三尾ハ13歳、16歳ガ最も多ク、9歳、15歳ガ次位ニテ8歳最も少シト。山口、川本等ハ加齡的ニ増加スト。又新井ハ上下學級トノ間ニ階級的差ナシト。又竹澤、中島等ハ最低16歳、最高9歳ニテ可成ノ高低アリ、10歳以下ハ高率ナレドモ腺様増殖症ノ如ク年齢別ニヨル疾患率ハ顯著ナラズト述ブルガ如シ。余ノ統計ニテハ11歳、12歳ニ最も多ク、ソノ前後ハ減少スルモ可成リノ高低アリ特定ノ關係ヲ認メ得ズ。

次ニ腺様増殖症ノ男女別並ニ年齢の關係ニ就テ過去ノ報告ヲ大觀スルニ、男女別ニハ女兒ヨ

リ男兒ニ多キ傾向アルモ必ズシモ然ラズ。又年齢の關係ハ検査者ニヨリテ小異アレドモ大差ナク、男兒ハ7歳乃至11歳、就中8、9歳ニ最も多ク、女兒ハ大體男兒ニ類似スルモ、動モスレバ男兒ヨリ一年位後レテ8歳乃至12歳前後ニ多シトサル。余ノ統計ニ於テハ女兒ヨリ男兒ニ多ク、年齢の關係ハ低年兒程罹患率高ク、從來ノ報告ト合致セリ。

第九項 其 他

以上ノ他、萎縮性鼻炎（眞性臭鼻症ヲ含ム）11名、0.8%、其中男兒4名、0.5%、女兒7名、1.6%、鼻孔濕疹3名、男兒2名、女兒1名、外耳濕疹4名、男女共ニ2名、先天性耳瘻孔4名、男女共ニ2名、耳翼畸形1名ヲ認メタルモ孰レモ實數少ク特記スベキコトナシ。

第四章 結 論

一、余ハ奉天省西安縣城内全滿人兒童1218名、(男兒788名、女兒430名)ニ就キ耳鼻咽喉科検査ヲ施行シテ結果ヲ得タリ。

(イ)、耳鼻咽喉執レカニツ或ハニツ以上ノ疾患ヲ有スルモノハ81.8%、且ツ疾患率ハ女兒ヨリ男兒ニ高く、年齢的ニハ低年兒程疾患率高キ事ヲ知レリ。

(ロ)、主要疾患罹患率ハ慢性中耳炎2.3%、慢性中耳加答兒1.8%、町聾栓塞症33.7%、慢性鼻炎16.5%、肥厚性鼻炎15.1%、鼻中隔彎曲症19.3%、萎縮性鼻炎0.8%、慢性副鼻腔炎3.8%、口蓋扁桃腺肥大症35.9%、腺様増殖症40.6%ナリ。

二、男女別ニハ町聾栓塞症、慢性鼻炎、肥厚性鼻炎、鼻中隔彎曲症、慢性副鼻腔炎、腺様増殖症等ハ女兒ヨリ男兒ニ多ク、萎縮性鼻炎、口蓋扁桃腺肥大症等ハ男兒ヨリ女兒ニ多シ。

三、年齢の關係ヲ見ルニ、肥厚性鼻炎、鼻中隔彎曲症ハ年齢ト共ニ増加シ、町聾栓塞症、慢性鼻炎、腺様増殖症等ハ年齢ト共ニ減少シ、他ハ一定ノ關係ヲ示サズ。

四、余ハ本統計ニ依リ西安縣城内滿人兒童ノ耳鼻咽喉科疾患罹患率ハ日本並ニ奉天城内滿人兒童ノソレヨリ一般ニ稍ニ高率ヲ示シ、就中町聾栓塞症、腺様増殖症ハ高率ナル事ヲ知レリ。

調査スルニ臨ミ恩師松井教授ノ御指導御校閱ヲ謹謝シ、高野院長、縣學務當局、各小學校當事者ノ御後援ヲ謝ス

主 要 文 獻

- 1) 鷗木秀二：學校衛生ニ於ケル耳鼻咽喉科。日本耳鼻咽喉科全書。第1卷ノ2。
- 2) 竹澤德敬、中島孝三：奉天滿人小學兒童ノ耳鼻咽喉科疾患調査成績。大日耳鼻。第44卷，第6號，1205頁。
- 3) 濱孝雄、巽五一、辻村健夫：學齡兒童耳鼻咽喉科疾患ノ統計的觀察。臨牀日醫。第3卷，第1號，第2號。
- 4) 本郷直喜：學童ニオケル耳鼻咽喉科疾患ト學業成績、體格及ヒ境遇トノ關係ニ就テノ統計的觀察。大日耳鼻。第39卷，第10號。
- 5) 原田良雄：學童ノ耳鼻咽喉科疾患ノ統計的觀察。耳鼻臨牀。第26卷，第4號。
- 6) 金野巖、山根時五郎：學童ニ於ケル耳鼻咽喉科疾患ノ統計的觀察。大阪醫事誌。第6卷，第9號。
- 7) 山崎實：大阪市日吉校學童ノ耳鼻咽喉科疾患。耳喉。第10卷，第9號。
- 8) 後藤光治、森本正紀：二三耳鼻咽喉科疾患ト體質特ニ京都市虛弱兒童ニ就テ觀察。耳喉。第10卷，第7號。
- 9) 吉村邦一、藤田爲刀、奥窪卓三、田中茂：京府內小學兒童並ニ中學生徒ノ耳鼻咽喉科疾患ト學業成績トノ關係。朝鮮醫誌。第23卷，第12號。
- 10) 新井信義：小學兒童ニ於ケル耳鼻咽喉科疾患ノ統計的觀察。耳喉。第10卷，第6號。
- 11) 馬鴻超：民國學齡兒童ノ耳鼻咽喉科調査成績。大日耳鼻。第30卷，374頁。

(原稿到着＝昭和15・7・15)